

地域情報 県央・県西

## 相洋高和太鼓部が全国へ 小田原、練習に熱気あふれる



全国大会へ向け熱気あふれる練習をこなす相洋高校和太鼓部

小田原市城山の私立相洋高校(武藤忠治校長、二千百十三人)和太鼓部が八月八日から福井県で開かれる第二十七回全国高等学校総合文化祭郷土芸能部門に、神奈川県代表として桐蔭学園高校とともに出場する。地元小田原にちなんだ創作太鼓「えっさ!小田原」など二曲を披露する。全国大会へ向け部員らは「観客に鼓動を伝えたい」と連日、夏休み返上で熱気あふれる練習を続けている。

同部は部員六十九人で半数以上が女子。一昨年、初めて県代表として同大会に出場し、今回が二回目。一昨年は初出場でいきなり二位の好成績を挙げた。今回、大会で披露するのは創作太鼓「えっさ!小田原」と、三崎に伝わる「三崎のぶちあわせ太鼓」の二曲。

「えっさ!小田原」は二、三年生三十人で上演する。「おさるのかごや」をモチーフにした地元小田原の「ODAWARAえっさホイおどり」の曲を使いながら、独自の振り付けなど独創性を込めている。

部長を務める三年、山崎洋平君(17)が肩から掛けた桶胴(おけどう)太鼓を打ち鳴らし、床に置いた長胴(ながどう)太鼓七台、小型の締め太鼓四台が勇壮なリズムを刻む。さらに、片手に小田原ちょうちん、片手に鳴子を持った「サル」と呼ばれる役の生徒が、リズムに合わせてちょうちんを空に向けて突き出したりしながら舞台狭しと跳ね、舞い踊る。

全員で音をそろえることや、スピード、表現力などが大会では問われる」と顧問の入野功教諭。大会へ向け部長の山崎君は「いつもと同じように、精いっぱい頑張りたい」と話し、副部長の三年、山口麻梨香さん(17)も「いつも通りの自分たちを見せて、お客さんに太鼓の鼓動を伝えたい」と熱気いっぱいの練習を続けている。

同部は九月二十三日、小田原市中央公民館(同市荻窪)で公演会を行う。大会で演じる二曲を含め約二時間にわたり、和太鼓を披露する。入場無料。



制作:神奈川新聞

Copyright(C) 2002 Kanagawa Shimbun